



大野一心

NO. 9

令和5年5月11日（木） 文責：校長 諸熊 修一

5月14日

生徒の皆さんに「5月14日は何の日？」と尋ねたら何と答えますか。「体育大会当日です！」。その通り。「他は何がありますか？」と尋ねられたら・・・。「校長先生の誕生日？」違います。「学校の創立記念日？」違います。5月14日は、「母の日」です。

私には82歳になる実の母親と86歳になる義理の母（妻の母）がいます。恥ずかしい話ですが、私は中学生、高校生の時はもちろんのこと、大学に進学してから、母の日に何かしたことは全くありませんでした。母の日に何かしらのプレゼントを贈るようになったのは、結婚してからです。子どもの頃は母がいるのが当たり前で、今思うと、母に対して何かすることが気恥ずかしかったように思います。「親孝行をしたいときには親はなし」とよく言われますが、父が3年前に亡くなった時には、そのことが痛いほどよくわかりました。

当日は、生徒の皆さんは体育大会で疲れているとは思いますが、一言「ありがとう」という感謝のことはや気持ちをお母さんに伝えてみてはいかがでしょうか。家庭の事情でお母さんがいない人は、いつもお母さんの代わりをしてもらっているお父さんやおじいちゃんおばあちゃんへ伝えてみてはどうですか。私も二人の母に日頃の感謝の気持ちを伝え、ささやかなプレゼントを贈りたいと思います。

下記は樋口了一さんの歌「手紙～親愛なる子どもたちへ～」の歌詞です。年老いた二人の母のことが私の頭によぎり、とても感動した詩です。



年老いた私が ある日 今までの私と 違っていたとしても
 どうかそのままの 私のことを 理解して欲しい
 私が服の上に 食べ物をごぼしても 靴ひもを結び忘れても
 あなたに色んなことを 教えたように 見守って欲しい
 あなたと話す時 同じ話を何度も何度も 繰り返しても
 その結末を どうかさえずらずに うなずいて欲しい
 あなたにせがまれて 繰り返し読んだ絵本の あたたかな結末は
 いつも同じでも 私の心を 平和にしてくれた
 悲しいことではないんだ 消えて去って行くように 見える
 私の心へと 励ましの まなざしを 向けてほしい
 楽しいひと時に 私が思わず下着を濡らしてしまったり
 お風呂に入るのを いやがるときには 思い出して欲しい
 あなたを追い回し 何度も着替えさせたり 様々な理由をつけて
 いやがるあなたと お風呂に入った 懐かしい日のことを
 悲しいことではないんだ 旅立ちの前の準備をしている私に
 祝福の祈りを捧げて欲しい
 いずれ歯も弱り 飲み込むことさえ 出来なくなるかも知れない
 足も衰えて 立ち上がる事すら 出来なくなったら
 あなたが か弱い足で 立ち上がろうと 私に助けを求めたように
 よろめく私に どうかあなたの 手を握らせて欲しい
 私の姿を見て 悲しんだり 自分が無力だと 思わないで欲しい
 あなたを抱きしめる力が ないのを知るのは つらい事だけど
 私を理解して支えてくれる心だけを 持っていて欲しい
 きっとそれだけで それだけで 私には勇気が わいてくるのです
 あなたの人生の始まりに 私がいっぱいと 付き添ったように
 私の人生の終わりに 少しでも付き添って欲しい
 あなたが生まれてくれたことで 私が受けた多くの喜びと
 あなたに対する変らぬ愛を 持って笑顔で答えたい
 私の子供たちへ
 愛する子供たちへ